

平成 30 年度サービス管理責任者研修 地域生活（知的・精神）分野事前課題

栃の丘市にお住まいの菅野美穂子さんは、今年の 1 月より市内の栃の丘病院に入院しています。これまでも何度か入退院を繰り返していますが、入院理由は喪失体験やそこからやってくる不安による幻聴や妄想症状の出現によるものです。

今回の入院はこれまでいっしょに生活していた兄が、今年の 1 月に仕事中に脳梗塞のため倒れ、その不安からによるものでした。兄は 2 週間後に退院したものの自宅療養（右上下肢に麻痺）が続いており、なんとかいっしょに生活していますが、兄の症状やこれからの生活に対して不安が重なり、妄想症状が出現し、同月に入院となりました。

6 ヶ月の入院治療を経て症状も落ち着き、退院に向けての準備がはじまりました。そこで、退院後の生活についてこれまでのように自宅で生活が可能かどうか本人、兄、病院スタッフと話し合った結果、兄の精神的・身体的負担の軽減も考え、ほかの生活スタイルについて考えていこうとなりました。

そして、病院のケースワーカーからの紹介で、退院前から地域生活支援者として、相談支援センターの相談支援専門員が支援に入ることになり（7 月 4 日～）、具体的な退院後の生活をいっしょに考えていくことになりました。

相談支援専門員と面接を重ねて行く中で、美穂子さんから「おにいちゃんのことや、これからの自分のことを考えたら今は自宅で生活はいろんな人に迷惑をかけてしまうかもしれない・・・」という話になり、相談支援専門員からグループホームのことを情報提供したところ、実際にホームのスタッフの話を聴いたり、見学をしてみたいということになりました。

それから、8 月 4 日に関係機関（病院、市役所障がい福祉課、相談支援、グループホーム、地域活動支援センター）と本人、兄を交え担当者会議が開かれました（会議後に初回面接を行った）。

その後、美穂子さんの希望により 8 月 24 日に自宅と同じ市内にあるグループホーム（女性専用）の見学をしました。見学後の感想は、「施設みたいなところだと思って不安だったけど、普通の家で雰囲気も良かった。それに、わたしと同じ病気の方もいてなんだかひとりじゃないって気持ちになりました。ここでの生活も自分の人生にとっては大切な時間になると思う」と利用に向けての言葉が聴かれました。病院に戻って院内スタッフや兄ともさらに話を深め、「いつかは一人暮らしになるときがくるのは分かっていたから、今回のグループホーム利用を機に、その準備を始めたい。」と、利用の意志を固めました。

そして、椎名相談支援専門員と共にこれからの希望を盛り込んだサービス等利用計画を作成、各関係機関を集めた担当者会議において退院後の生活を具体的に話し合いました。

あなたは共同生活援助事業所「ホーム青空」のサービス管理責任者として事前課題に取り組んでください。サービス管理責任者であるあなたは、美穂子さんの受け入れにあたり、どのように利用するのか、どのような支援を行うのかを記載する「個別支援計画」を作成するための会議を行いたいと考えています。

あなたはこの会議を開催するにあたり事前準備として「相談受付表」「アセスメント票」「サービス等利用計画」をもとにニーズの整理を行い、別添の「ニーズ整理表」に記載してきて下さい。

注意：9 月 26 日からの演習で使用しますので当日持参して下さい。